

収集

文化や自然資源の保護・継承を目的とした収集活動（博物館の根本機能）

・長期間にわたる資料蓄積
・収蔵スペース不足
・人員・財政上の制約
・収集方針や収集計画の未整備又は運用上の課題

「資料の収集、登録・管理、保存等に関する方針」を明文化している館は34.4%

[R6日本博物館協会博物館総合調査（速報版）](#)

開館から30年以上経過する博物館が約7割

収蔵庫が満杯状態の博物館が6割超

収蔵庫の使用割合が「9割以上」の博物館が39.3%、満杯で「入りきらない資料がある」博物館が24.4%

[R6日本博物館協会博物館総合調査（速報版）](#)

表出する問題

管理上の問題

- ・通路まで資料で埋まる
- ・資料が積み重ねられる
- ・資料の所在が把握できない
→デジタル化を含めた整理が困難
- 点検・調査研究・活用が困難
- 災害リスクの増大

館内での問題

保存上の問題

- ・過密収蔵による風通しの不足
- ・温湿度管理の不足
- ・虫害・カビの発生
→資料の劣化・汚損・破損

収集上の問題

- ・新規資料を受け入れられない
→コレクションの追加充実が図れない

館外での散逸・廃棄の問題

- ・寄贈申出を受けられない
- ・所有者死亡や空き家解体
- ・地域資料の散逸・廃棄
→地域の記憶や文化資源の消失

館外での問題

特に館外での散逸・廃棄の問題については、高齢化社会の進展に伴い相続や遺品整理が増加することが予想される。地域に存する文化資源の相続や継承には喫緊の対応が必要となる

対応

量的対応：

収蔵スペースの拡張

- ・収蔵効率のアップ
- ・収蔵庫の新設
- ・遊休施設の収蔵庫利用
- ・民間倉庫の活用

主に設置者による予算化等が必要

ただし、これのみでは増え続ける収蔵資料に対し、根本的な解決とならない

質的対応：

コレクション管理

- ・コレクションの充実と将来的な活用
- ・資料の再評価に基づく管理の在り方の検討
- ・適切なプロセスと手段による処分（廃棄は処分の中でも最終的な手段）

主に運営者による取組が必要

持続的な管理によりコレクションの充実を図ることは、収蔵庫問題に限らず必須

博物館資料の収集と管理に関する「基本的な考え方」

各館による「収集管理方針」策定（館種団体等によるガイドライン作成）